

## 社会に必要な坊さん

社会教化担当委員

伊藤秀温



「社会に必要とされる坊さんになりなさい」。大先輩からいただいた、私にとって大切な言葉のひとつです。当時、僧侶の道を歩み始め、お経に、法話にと、お坊さんらしいことだけに励んでいた私。法事も葬儀、供養を勤めることが役割だと信じ、それ以外の何かに思いを巡らすことはありませんでした。いつ振り返っても恥ずかしい話です。

地元の青年会で

は、毎年夏休みに2泊3日の修養道場を開催しています。地域の子どもたちとごす夏の楽しいひと時です。子どもたちは協力して、時にはケンカもしながら、力を合わせてプログラムに挑戦します。お兄さん・お姉さんが年下の子をまとめ、年下の子たちも一生懸命ついていきます。帰りには、初対面の緊張した顔とは違い、にこやかな顔で仲間たちと別れていきます。たった

## 小さな社会に新しいつながりを目指し

3日間で、子どもたちの小さな「社会」ができてあがるのです。「社会」という言葉は、世界や国のように、大きな社会を想像させますが、近く周りを見渡すと、小さな社会がたくさんあることに気づきます。

地域の中では「町内会」、子どもが生まれると「ママ友・パパ友」、野球好きな「野球仲間」と、探し始めるとキリがありません。こんな小さな「社会」が集まって、大きな「社会」がつくられま

会」が「小さな社会」に立って、大きなお題目の社会へつながることを進めて参ります。

必要とされる坊さん」は、「小さな社会の声に寄り添う坊さん」だと信じ、先輩の言葉を胸に刻

伊藤秀温・昭和58年生まれ。琉球大学法文学部卒。名古屋市長本覚寺住職